資料１

2012年度　教職課程活動報告

間山　広朗

本年度の教職課程は，神奈川大学附属中・高等学校前校長の澤田敏志先生という強力なスタッフを横浜キャンパスに迎えスタートしました。また，本年度ならではの変化としては，「資格教育課程課」の新設をあげることができます。教職課程を履修する学生の側からすると，横浜キャンパスでは従来，様々な手続きを行なう場所が１号館と教職課程支援室に分断されていました。資格教育課程課を新設するにあたってこれが改善され，教職課程支援室の17-21室に手続きを行なう場所が統一されました。このことは，単に学生が効率的に手続きを行なえるというだけでなく，そこに常置する職員にさまざまな相談がしやすくなるという効果も生んでいるようです。また，隣の17-22室は，学生を中心とした学修スペースとして昨年度から実質化しましたが，このスペースとの有機的な連関が図られつつあるように思います。

横浜キャンパス17-22室では，学校ボランティアの活動報告をしあったり，教員採用試験対策の個別学習に加え，情報交換，勉強会もなされています。教育問題を始め，社会現象に関する新書などを読み，議論しあう読書会も活発です。また，資料作成を行なう教員と学生との間で何気ない対話も生まれ，「場所」の力を感じられるようになってきました。

さて，もう少し公式的な活動報告としては，来年度から開講する新規科目の準備を行なったのが本年度であったといえるでしょう。２年次以上必修科目となる「教育方法論」「教育課程論」，４年次後期の必修科目となる「教職実践演習」が来年度から開講されます。全国的に来年度が実施年度である「教職実践演習」は，試行錯誤しながらの運営になることが予想されます。４年生が，教育実習をふまえて自己の課題を認識し，教職課程履修の総まとめとして受講する科目です。教師が生涯にわたって学び続けることが求められるなかで，その土台づくりを行なうことがこの科目に求められています。その意味で，教師には教育実践研究を行なう力量が求められており，その最初の一歩となるべく，この科目を計画している所です。

このように，制度改革のもとで新たな課題に直面する教職課程ですが，来年度も関係各位のご協力をお願いして，本年度の活動報告と致します。